



第1号

発行
 広島市外五日市町三宅
 広島工業大学「五三會」
 代表 菅原 辰幸

第1回建築学科同窓会総会開催!

卒業生の皆様へ

曾根田 彰

皆様お逢いで毎日元気よくやっておられますか。第一回生の諸君を送り出して早くも五年の才月が流れてしまいました。卒業式を控えて多くの諸君が自信のなさそうな不安げな顔をしておられたのを思い出しますが、今では恐らく五年のキャリアを重ねて張り切った活躍をしておられること、信じます。二回生、三回生等それぞれにその年期に応じて自信と失敗を繰り返しながら次第に一人前の建築技術者として成長されている事と思います。

今年の正月も多くの方々から賀状を頂きました有難く拝見しました。名前から直に顔が思い浮ぶ人もあり、また名簿を繰り就職先等を調べて漸く思い出せる人(基だ申訳ない事と心で詫びながら)もありますが、その年の卒業研究の頃を懐かしく思い出しております。何分大勢の方々ですでお返事を失礼させて頂いたことをこの紙上を借りてお詫び致します。

確か第一回生の卒業の時に話した事と思いますが、就職後一年位して何となく自分は方向を誤ったのではあるまいかという疑惑を持ち始める時期が来るかも知れないが、自分でよく考えた上選んだ職場である以上、少なくとも三年間はその職場の仕事にひたむきに取り組んで精一杯の努力をして見る事。そして三年間の努力と経験を踏まえてあらためて深く考えた上の方向転換ならばその三年間の努力は決して無駄にならない筈であるという事です。或は方向転換するなら一年でも早い方が無駄が少ない様な「あせり」を感じるかも知れませんが巾広い建築界の仕事の一つのパートである限り決して無駄にはならない筈です。たゞあせりと疑惑のために今の仕事に身が入らない様な毎日を経験したのでは実り少いものになるでしょうし、一年や二年で簡単に浮動する様では次の職場で再び似た様な気持ちを味わうことになって、結局無駄の繰り返しとなり、徒らに履歴書の面を汚して将来に禍根を残すことになるでしょう。これは「石の上にも三年」という諺で云っているのではなく私の経験から見て建築技術者の仕事は少なくとも三年以上の経験を積まないと、どんなに部分的な仕事でもほんとうのものは判らないと思う遠見です。もし今迷っている方があったとしたら、この食しい私見を是非とも参考にして、先輩の方々のお考えも聞いた上で慎重に考えて貰いたいと思います。

それでは今日は建築界のどの部分においても難かしい時期になって来ましたが、暗い夜には必ず明るい曙が訪れる

ことを信じて、それぞれの立場で広島工大の卒業生であることの責任を忘れないで頑張っておられることを祈っております。

総会・懇親会案内

- 日時 5月12日(日曜日)
 - ・ 総会 3時～
 - ・ 懇親会 4時30分～
- 場所 広島共済会館
 広島市東白島町19-65
 TEL 21-3736
- 会費 3千円
 (年間会費等と一緒に送金して下さい)
- ※ 会場の都合により、出欠を4月29日までに締切りますので早く出欠ハガキを返信し、振込んで下さい。
- ※ 入会金・千円 年間会費・千円等も同時に振込んで下さい。

会場案内図



○今春卒業予定者の就職先

先輩の方々、下記の新会員が社会に飛び立ちますのでよろしく御指導をお願いいたします。

氏名	就職先	氏名	就職先
味沢 重明		松田 四郎	
石村 弥		松本 和之	
池田 典司		三角 学	
伊藤 邦雄		松本 洋	
井上 敏章		三宅 倫明	
今井 寿志		三好 覚	
今元 英夫		向井 義信	
上田 和彦		村中 英樹	
臼井 正之		森下 誠	
馬越 哲男		師橋 修	
太野 芳茂		山下 和夫	
沖中 幸人		山田 和敏	
小篠 正彦		山臺 博雄	
掛田 義樹		山本 篤志	
梶山 孝之		横田 俊和	
角井 衛		渡辺 丈太	
兼森 武文		山本 真志	
川西 秀和		村田 昭二	
河元 一成		岡崎 賢治	
北村 彰朗		佐藤 陽一	
蔵本 和孝		秋山 雅芳	
児島 正喜		井寄 隆敏	
小浜 孝行		邑染 博	
三枝 治郎		梶森 昭司	
坂根 満		加藤 博	
佐々木 修		菊本 忠史	
佐藤 一夫		木ノ原敬司	
下津 博行		佐藤 泰章	
菅 信夫		首藤 直美	
隅田 政治		瀬尾 俊幸	
角田真佐世志		中嶋 哲司	
関 清伸		中原 節男	
高橋 啓二		中山 博正	
田口 建司		原 俊博	
立上 秀人		平井 進	
田中 豊		峰岡 俊治	
田村 公男		森川 博幸	
手越 義昭		有間 良満	
戸倉 茂		二宮 洋司	
豊田 勝吉		今井 強一	
二井 章文		和泉 明法	
西尾 明		山下 博明	
西村 博		堤 保夫	
羽仁 照雄		松岡 享美	
林 孝司		鞭木 信夫	
原田 正明		浜田 耕司	
平井 一嘉		網谷 康司	
福岡 正明		糸野 正記	
星出 雅弘		今井 敏文	
本名 和夫		今津 秀樹	
松井 利子		上熊 徹保	
松浦 進		上田 博	

内田 忠司	明賀 実
大石 和幸	三好 鉄己
大西 正行	村上 郁夫
沖田 雅彦	村木 昇
小倉 一成	山下 剛敬
折手 博章	山田 幸一
掛谷富実雄	山中 武吉
倉田 正義	横田 茂樹
黒木 章治	吉田 敬治
小西 堅	宇高 玄基
小林 和正	大本 敏
西賀 良幸	小原 静夫
財原 和彦	斉藤 勇児
酒井 博司	中田 英三
碓山洋太郎	別宮 泰輝
佐藤 康夫	柳田 綱生
三分一吉徳	和田ミドリ
新宅 英治	石田真喜雄
須賀 良二	稲葉 孝二
住田 雅幸	大羽 重男
諏訪本裕二	沢井 恒郎
高山 和始	柴崎 謙次
竹内 健	中藤 和男
竹田 賢	西川 渡
田中 龍則	箱田 裕
玉井 康雄	浜本 正周
田村 稔	原口 親光
田中 亮二	平井 隆晴
寺岡 一郎	道越 哲郎
戸田 富久	山本 哲夫
中島 伸夫	上信 憲昭
二階堂 直	上杉 栄吉
二野宮秀司	大寺 英男
埴淵 隆	己斐 政信
原 孝司	佐藤不二夫
東山 敬一	高川 正男
兵頭 郁夫	西原 史芳
福長 正幸	安原 潤一
藤谷 賢介	内山 実
藤原 憲治	木村 和典
堀越 隆広	江藤 登
前 良介	今田 修三
松浦 悦雄	鳥越 博己
松岡 孝廣	平原 稔
松本 崇	岡 周平
松山 和弘	奥山 晴雄

会員へのお知らせ

◎ 会費納入のお願い

建築学科卒業生全ての会でありますので会費を納入されてない方一日も早く送金下さいませよう。

なお 入会金は千円 年間会費は千円です。

郵便局の口座番号は 広島 **28276**

◎ 卒業生の住所録を整備しよう

住所録を整備すべく努力をしておりますので会員・同窓生の皆様からの連絡をお願いいたします。

返信用のハガキは必ずポストへ!

48年度会費納入者名

44年度卒業	向井 義治	西林 武博	村田 卓雄
青木 能典	椋田 克生	46年度卒業	山田 秀明
秋本 孝	柳田 光雄	青葉 憲明	吉田 優
麻田 恒夫	山口 邦良	榎本 好数	渡辺 光明
有田 三郎	山田 満春	加川 幸則	井上 公德
阿部 宏嗣	渡辺 武彦	河田 清数	今岡 敬徳
阿部 芳雄	45年度卒業	木島 常雄	金川 豊
伊東 公	石原 勝博	木村 博	小谷 真行
伊藤 鉄雄	伊妻 孝	谷口 聡	佐々木 一良
井上 隆寿	益本 正晴	内藤 久義	田川 照政
好面 好子	岡本 孝治	松本 敏	田辺 俊治
渦見 和彦	岡本 博文	水野 豪	丸山 宏
大本 正明	小田 正志	岡野 文昭	道方 善貴
岡信 正	加藤 早苗	加納 満寿	三村 重人
奥田 博俊	金堀 一郎	倉元 彦吉	森田 洋生
梶谷 忠治	叶 重信	越智 宗治	山本 敏郎
吉川 澄生	木戸 弘市	河村 正志	山崎 哲夫
小林 亘	国実 正志	坂井 重則	木村 康利
笹井 哲也	熊崎 房夫	高尾 康明	田中 清
柴田 享三	合ヶ坪孝彦	佃 義光	村田 正晴
地岡 道明	炭本 雄起	出羽 健三	48年度卒業
菅原 辰幸	高橋 秋男	馬場富次郎	岩田 幸二
高岡 昌弘	高橋 勝治	村上 憲弘	植木 雅士
竹内 朋司	高橋 建二	富金原啓亨	上杉 論
知野 吉春	田川 一行	八百野克彦	大倉 邦寿
対馬 正則	小松 正和	小早川修治	沖本 幸男
中塚 晴夫	中原 人司	47年度卒業	尾崎 明美
長田 隆之	石川 計幸	生田 文雄	木村 聖
二宮 恒治	新見 昭憲	川田 潤	佐々木 正治
野宗 一郎	桧垣 義則	木原多佳雄	高橋 通
濱田 和男	桧上 正人	実森みどり	中田 隆志
馬場 富蔵	本馬扶未夫	定金 正	広安 耕紀
藤井 栄光	森田 広満	白井 紳一	藤本 勉
藤原 武	山崎 孝夫	杉谷 康男	三宅 養二
三上 照子	山中 和夫	樽岡 範治	八林 賢治
松浦 保彦	加島 晴子	多賀 一範	石橋 隆好
三上 明夫	和田 隆夫	坪内 秀一	上野 裕三
三上 耕平	田原 亮治	馬場 好信	雲津 俊雄
水野 良信	村上 忠義	三吉 幸夫	前川 義明

米田 誠三	河島 和良	田中 康夫	桃谷 均
荒木 留美	川本 雅司	平林 三鈴	矢野 康夫
大山 郁哉	北原 伸夫	福岡 正憲	山根 憲司
荻山 俊郎	久保田 実	増田 五雄	山本 明
尾野木 悟	河野 一	益田 博文	吉田 泰英
角本 信久	佐川 規行	宮脇 達雄	米田 徹

会員へのお知らせ

◎ 種々の情報をお知らせ下さい。

「五三會」の会報において種々のコーナーを設けてゆきたく考えておりますので、職場でのこと又友人の情報、思いついた事なんでもけっこうです。写真等もけっこうです。ハガキでも手紙でも御一報下さい。会報にのせ会員にお知らせします。

建築サークル運営会を

建築サークルをごぞんじですか、この名称は、都市計画・集合住宅・海上都市・独立住宅などの学生による自主的研究グループの総称です。

さて、現工大建築学科に於いて、学生のグループ的な、研究・学習活動は、あまり活発ではないようです。グループ的活動とは、学生自身による、自主的、個性的研究活動です。各研究室に席を置く人、私的に、単独又はグループで行っている人、それは私達を加えると、かなり在るかも知れませんが、それら個人又はグループの各々の横による学問上での関連は、皆無近いと言えます。「あそこは、あのグループは何をしているんだろう？」などまだ良いほうで、「一体サークルなんて開いたことない。」などという人が大部分ではないでしょうか。一般学生とのつながり、研究発表の場も、もてない、これでは発展など望むべくもない。建築の研究グループ各々が連絡し合い、刺激し合って、学生に成果を還元して、初めて、高揚してゆくのだと思います。

そこで、必然的に、「建築サークル運営会」（仮称）なるものが必要となってくるのです。これは、個々の研究を推し進める為、相互批判や学習会を催したり、情報収集、さらには他校との交流など、あらゆる研究の場を提供し、活動を援助、促進させる機能を有す組織です。

このようなことがありません。さし当って私達は、新年度から、このような活動を推進してゆきたいと計画している訳ですが、いかがでしょう学生皆さんの理解・協力と先輩諸氏の助言、援助をお願い致します。

フェイス 焼却炉 公園遊具

中・四国最大の実績を誇る

SKK 山陽建互株式会社

本社 広島市西川口町5番2号 電話(代)91-1020

セキレイ製図紙・発売店 東京光学 } 代理店
製図器・ドラフター 測機舎

株式
会社

シツク 広島支店

広島・富士見町16-2 TEL代表44-2331

東京・川崎・名古屋・大阪・岡山・福山・徳山
松江・松山・高知・高松・徳島・新居浜

同窓会の意義

菅原辰幸

私は時々同窓生から同窓会は無意味ではないか、同窓会で何か同窓生に意味あることができるのか?、等と耳にすることがある。

同窓会とは何であろうか?、何をなすべきかと常に自問自答してみるのだが、同窓会を個人の立場から見ると、集団の立場から見るともかなり食い違ってくるのではないかと考えるのである。質問されたり、反対される方は、割りに個人の立場で質問され、狭い範囲で見られているように受けられるものが多いようである。同窓会が現在、自分にどんな利益を与え得るのかをかなり重視されているようである。もちろん、そのような要望は当然のことであるには違いない。しかし、その判断をされる場合、今すぐ見える型のものでの還元を要求されていることが多く、このあたりに問題があるようである。今すぐという条件は簡単に理解していただけるのだが、(しかし我々としては四～五年先を目指し、エネルギーを貯えたく努力しているのだが)もう一方の有形無形の問題である。いくら五～六年先になっても有形なものでの還元は何ら期待できないのではないだろうか。我々が今計画しているものにしても、会報の発行、住所録の発行と講演会等が開催できるようになればかなりの成果ではないかと推測しているもので、以上の中にどれ程有形な部分があるのかは疑問である。そのように有形なものがあまりないからといって同窓会の意味が半減するとは考えられないものであり、同窓会に対してあまり有形なものを期待するのにかなり問題があるかと考えられ、同窓会の同窓生個々への還元として、私は精神的もので充分ではないかと考えている。

同窓会会報等が仲間を結びつけ種々の情報が、全同窓生のところへ郵送されることにより、喜び合ったり又自分もがんばらねばと励みにしたり、そのような同窓生の精神的な集団であることに意味があるのではないかと考えるものである。

「年間一～二回何か郵送されてくるだけではないか、そんなものに千円の会費がおしい」等、と考えられる方がありましたら、その年一～二回の郵送物にしても、もし送られてくるものがなかったら何と淋しいものであるかをも考えていただきたく思う。

我々は卒業して日も浅い、なんとか情報も入るであろう。しかし、何年後も継続して情報が入る場所にいるとも限らない訳で、「今、あいつはどうしているか」と探すにも困難になってきはしないだろうか。

又無形の精神的なものをお金に換算することもできないだろうことも理解していただきたく望んでおります。

これとは別に、広島工業大学の全体の同窓会との関連をも述べてみたいと思います。全体の同窓会の意味は「五三會」とは別に有るものと考えられる。全体の同窓会の小廻りのきかない部分がある訳で、建築学科卒業生に必要なことで、全体の同窓会ではどうしてもやれない部分を中心に全体の同窓会と重複する部分をも持ちながら建築学科卒業生の結束を計る為に役割りを果たすなら、それで意味を持つものと考えられる訳で、建築学科卒業生全員でもう一度「五三會」の意義を考えていただきたく希望します。

五月十二日には第一回建築学科同窓会総会が催されます。仲間の元気な姿を期待しております。

「コンピュータ」

杉谷康男

私達建築構造に携わる者にとって大きな関心事はコンピュータであると思う。コンピュータについて私見等少し述べたいと思う。コンピュータの構造設計への貢献としてはまず構造解析面への適用があげられる。コンピュータ導入以前の構造設計者はむしろ構造計算技術者といってもよく、その仕事の多くの時間をラーメンとかトラス等の応力解析にとられていた。そこでコンピュータの導入により、まず手計算で行なわれていた計算方法をそのままコンピュータに代行させるプログラムが作られた。

次にコンピュータ使用を前提としてつくられたマトリックス構造解析法が登場してき、骨組解析に多く用いられている。代表的なものとして「STRESS」(MIT)とか「FRAN」(IBM・MTT)等があり、これらは三次元骨組の静的構造解析を行うことができた。続いて骨組だけではなく平面構造とか立体構造などを取り扱う有限要素法があらわれた。以上のようにコンピュータが発展してきた。その構造解析面でのおもな貢献として次のようなことがあげられると思う。まず構造計算のスピードアップ、設計の省力化、構造解析技術の普遍化等があげられると思う。とくに普遍化ということについては、広島でも電々公社が導入したDEMOS等があげられる。DEMOSについては端末機からデータを入れ、その計算結果を端末機より受けとるオンライン、リアルタイムシステムであるため、インプットとアウトプットの方法さえ知れば誰でも容易に部材力や変形等が計算できる。端末機が普及してき、その使用になれてくると、構造設計の大系が大きく変化してくるのではないだろうか。以上おおまかなコンピュータの

建築設計・監理



株式
会社

しらはに

白土建築設計事務所

SHIRAHANI ARCHITECTURAL OFFICE

広島市上鞆町8番34号

Tel (0822) 28-0355

代表取締役 柴田 齊 男

貢献について述べてきたが、反面その貢献による逆作用を考える必要が出てくる。つまりコンピュータの結果を神格化しそのまま信用してしまうことはないだろうか、インプットエラーはないか。アウトプットより力の流れを大きく追ったり、変形性状をチェックしたりすること等が大事になってくると思う。又構造技術を安易な技術と錯覚してしまうことはないだろうか。コンピュータにデータさえたたき込めば全部設計をしてくれるという錯覚をしてはならないと思う。コンピュータが発展進歩してきた今日建築構造に携わる者が考えねばならぬことは次のような事ではないかと思う。

以前は肉体労働的な構造計算に多く時間をとられ消極的にならざるを得ず、建築家の基本計画に基づき部材断面を設計するのが常であったと思うが、これからはコンピュータを導具に種々の比較設計を行ない、設計初期より設計に加わり、すぐれたものを生み出すよう努力すべきだと思う。又構造物の安全性を高めるため、大学、種々の研究所で行なわれている研究を設計面に反映させ、強く、粘り強い構造物をいかに設計するかを研究者と討論して考えていかなければならないと思う。

コンピュータがいかに進歩してきたといっても、大きな構造的仮定のもとに行なわれていることを十分認識する必要がある。

いろいろ述べてきたがつまり構造設計者が建築物生産体系の中でどのような役割を演ずるべきかを考える必要が新たに必要となってきたと思う。以上コンピュータについて述べたが「五三会」の情報交換の一環となれば幸いと思います。又広島工業大学、建築学科同窓会「五三会」が誕生したことを心から喜び、又その発展、目的達成に微力ながら努力したいと思います。諸先輩、後輩諸氏の御活躍と御健康を祈るとともによろしく御指導下さることをお願いします。

日頃思うこと 向井義信

もうじき学生生活に、ピリオドがうたれる。卒論という、辛苦と忍耐の象徴のようなものからやっと解放されるといふ気持ちと共に、これから、未知の社会に放り出されるという何か、夢と期待と不安が入り混じった複雑な気持ちが、している今日この頃です。

論文に取り組んでいて、よく思うことは、日本人の価値観を転換するにはいったい、どうすればよいのだろうかということ。ここで価値観とは、ある人のあらゆるものに対する自己の考え方の尺度を云います。

最近のわが国の社会情勢を、見渡すと、石油危機、買い

占め、買いだめ、悪性インフレなどの大きな問題があげられます。それらは、日本という国の体質を諸に露呈した感じがします。資源の乏しい国が、高度成長を、とげるには、それなりの条件が揃っていたように思います。つまり、日本人特有の精神構造、単一民族に近いこと、地理的条件、歴史的条件などです。この中で、特に、注意しなければならない条件として、次に少し触れる精神構造があると思います。

日本人は非常にものわりのよい国民であると思います。彼等は資本家や、政府に、私利私欲の為に、都合の良いように、踊らされ多くの社会問題の中で犠牲を強いられています。そういうことに対して、大多数の人々が、事なかれ主義、長いものには、まかれろそのうち何とかなるだろうという怠慢な態度でのぞんでいるのです。極端に言えば、こういうことが、今日の日本の虚構の繁栄を招き、公害をまき散らしたように思えます。

このような状況だからこそ、国民一人一人が、現在の日本のありさまを認識し、これから、日本は、どのような道を選び、どのような歩み方をしたらよいかということに関して、真剣に、取り組んで、考えてゆかなくてはならないと思います。それには、各人がまず価値観の転換という大きな壁に、立ち向かわなければなりません。非常に大きな課題であると思います。人がある一つの価値観をもつには、その人の性格、生いたち、環境というものが、大きく作用していると考えられるから、そうやすやすと価値観の転換はかされるものではないと思います。

しかしだからといって放っておける問題でもありません。事態は、緊迫しており、国民が、それを自覚して、種々様々な立場において早急に解決の糸口を見い出さなければなりません。例えば、それは、様々な立場の人々が密接に、協力し合って相互の意志の疎通を、はかることであるかもしれせん。いずれにしても、全国民が、特有の精神構造を克服して、自ら考え、価値観の転換をもって自らすべてを創造しなければならぬことは、確かであると思います。

私は、建築という方向から、価値観の転換という問題に取り組んで、時間をかけて考えていこうと思っています。

そういう点で、現在、論文を試行錯誤を繰り返しながら作成することによって、私達の生活をとりまく一つ一つの言葉の意味を、建築的観点から明らかにし、社会の矛盾を見い出し、そして疑問をもつことは、自己の価値観を徐々に形成することにつながり、ひいては、それが長い目で見て、価値観の転換という大きな問題を解決する為の糸口になっていくのではないかと考えられます。

こういう淡い希望をもってこの文章を結びたいと思います。

建築の総合メーカー



太平住宅

建設業・建設大臣許可(特-48)第1211号
宅地建物取引業者免許・建設大臣(2)第472号

本社/東京都新宿区西新宿1-20-1
広島支店/広島市住吉町1番13号
電話(43)2010代

草創の記

丹羽博亨

昭和四十八年十一月に広島工業大学創立十周年を迎えた。その記念事業の一環として「広島工業大学十年史」が刊行された。その中の「建築学科のあゆみ」によると、建築学科は入学生ークラス約百四十名で出発し、一年次の専門科目は一般構造・絵画彫塑・設計製図工の三科目が開講されている。翌四十四年度二回目の入学生は一挙に二クラス二六五名であったと云う。私が本学に赴任したのは、この昭和四十一年十一月であった。それから希望に胸脹ませ、四号館の教員室に出勤することになった。学校から木製の机・椅子・本棚そしてソロバンが配給になって、給料三万一千四百円也をいたゞくことになった。当面の仕事は、上野先生、山本先生の設計製図の助手として八号館にある建築学科の製図室について行くことであった。製図室には最新式のドラフター数百台が整然と置かれていた。

昭和四十二年三月には、体育館・建築学科製図室を含む四階建の三号館が完成し、そして曾根田先生、吉田先生、牛島先生が就任された。

それまでの室の配属は、飯田教授のみが個室の教官室を与えられていたが、この年よりその教官室に曾根田教授と新内助手が入り、三号館の三階の準備室に上野先生、山本先生と吉田先生の三人が、二階の準備室に牛島先生と私が入ることになった。この年より、私は三年次生に「国土計画・都市計画」の講義を担当することになった。当時は、今ほどに都市計画の参考書もなく、ほとんど土木技術者用のものであった。それらの中から、平川保一著の「都市計画概論」を使用して講義することになった。大教室で多人数の学生を前にしては、緊張の連続であった。学生諸君は大変熱心で、質問もよく出た。優等生の伊東公君、髭をはやした椋田克生君、美人の今井好子、清田幸子さん等の質問には、非常に閉口した。そのような中で、先生としての自分を取り戻すことのできるのは、井の口の工大付属工業高校で、若き、いがり頭の高校生を前にして、建築史の講義をする時のみであった。

当時建築史の講義の一環として飯田教授と共に、奈良・京都への研修旅行・出雲大社・日の見崎・松江へのバス旅行、また、厳島神社・広島にある禅宗寺院不動院の見学等のことが懐しい思い出である。伊東忠太の愛弟子であられた飯田教授から講義の時は、必ず「伊東忠太先生」と云う名前が聞かれ、昭和四十二年建築学会中国支部に「出雲の神様はなぜ横を向くか」の論文を発表され御健在であられた飯田教授は、昭和四十六年二月六日仙台にて永眠され

た。

昨年も卒業生の一人杉谷助手と十月に二年次生八十名とバス二台にて奈良・京都への研修旅行に参加した。宿には関西在住の卒業生が訪ねてきてくれ、在学生と共に語り会ってくれた。在学生にとっては、さぞ心強く思ったことでしょう。そして、一級建築士に三十九名も昨年は合格したと聞く。

また、大学でも近々建築学科棟が建設される予定である。あとは卒業生の御健闘を祈るのみ！石油ストーブ付き研究室にて記す。

佐藤立美

早いもので私が広島工業大学に着任してから4年目の春を迎えようとしています。

着任早々オリゼミで始めて顔を合らし、少なからずどきまぎしながら、広島工大を一語に考えていた新入生はもうこの春卒業しおのれの信じる道にそれぞれの第一歩を踏み出そうとしています。現在私の研究室で卒論を書いている学生が私の着任と共に入学した学生だと思ふと時間の短さを痛感せざるを得ません。

この四年間世の中の動きをふり返ってみると、佐藤内閣の高度成長政策は列島改造を旗じるしとする田中内閣により一層の激しさを加え、一連の建設改造計画が推進され、成長政策は順風満帆のごとく見えたとつかの間、建設資材不足物価高とインフレを助長し、更に昨年暮の石油ショックとはげしい波を幾重にも経験した。

広島工大を考えてみても、武道館、セミナーハウス、図書館、そして現在建設中の新2号館等々が建設されその成長のあとはめざましいものがある。又、昨年度改正された新カリキュラムによる新しい教育姿勢のもとに専門教育細分化の傾向が打ち出され更に長年の懸案だった建築学科同窓会も五三会の名称で動きを始めた。

それらの動きを横目でみながらうゆうと学生生活を過ごした学生も、実際に身をていして働いた人達もともかく四年の歳月を経験した訳である。

時は全てのものを変貌させると云う。したがって「世の中かわった。」「そして工大も変る。」と云えばその通りであるが、「男子三日会わざれば刮目すべし。」というのは人間の成長の着実なる事を意味するものと考えている。とすればこの四年間我々自身本当に刮目するほど成長したのかどうかはなほ心細いものを感じている。久しぶりに友人や卒業生に合いその変わりように「はっ」とする事がよくあるが身近にいつも居るとほとんどわからない変化と成長。これが我々のもつ成長エネルギーらしい。しかし世

鉄筋工事一式請負



馬場鉄筋建設株式会社

代表取締役 馬場 富蔵
 広島市段原日出町15-4
 (電) (81) 0236・(81) 9448・(81) 9449
 仁保工作所 (83) 5218
 東雲町工作所 (82) 8492

今年の建築業界は多難の年です。こんな時にこそ横のつながりが大切。卒業生並びに在校生の皆様鉄筋工事は大小にかかわらず親せつていない。良心的をモットーとする我社へ！
 第1期卒 馬場 富蔵

の中の動きと云えどもそれらの微々たる我々の単体としてのエネルギーの総体であろうから、総体として成長するなら当然単体も成長したはずなのだが、あまりにも単体の持つエネルギーが少ないため、世の中の動きに我々が流されていると思うし又事実流されている事が多い。私自身も工大の中に居てどうやら流されていたらしいと気がついたので今年には自分のエネルギー密度を高めたいと思っている。それにはどうやら自分の時間を最大限大切にすることが一番のように思われる。人が真陰に一つのものにうちこむ姿は美しくみえるが、それは彼が彼の時間をいかに大切にしているかという事が感動させるように思われる。また、最近よく云われる事であるが地方色の欠如、地方文化の均一化さえもこれら人間のもつエネルギー密度によるように思われる。元来流れはエネルギー密度によるものだから高密度のエネルギー地域より低密度の地域に全ての文化が流入し、地方文化の消失という事になる。

広島工業大学が広島地方に独自の牙城を築き発展させようとするならば、教職員、学生及び卒業生のもつエネルギー密度を高めるしかない訳で、そのため一人一人がプロフェッショナルな意識の上に立って時間を大切にせざるを得ないという事になりそうである。

すでに千人近い卒業生をもととして五三會に、これらの個々のもつエネルギーを集約し高エネルギー密度を作る触媒として今後の活躍を多に期待したいと思っています。

それにしても建築続きで大いに容貌を変えてきた広島工大は本当に成長したのだろうか。大いに反省したいものである。

おもうまに

445186 河島和良

世にお役所仕事という言葉がある。

まことに「ハカ」のいかにのろのろ仕事の代名詞である。役所—これは役人の仕事をするところという辞典の解釈。役人とは一官職に就いている—といったことになる。

日本人のお互いには不思議に役人とかお役所とかいうと、この言葉そのものに畏敬というより畏怖の念を抱く。

封建時代の武家政治は目的として階級制度を第一とした。士農工商という現在から見たら、まったくナンセンスと思えることを徹底的に実行した。武士以外は人にあらずとまで極言された事実。その斬り棄てご免といった300年の歴史は明治維新によって武士階級は潰滅したが、それによって新たに登場したのが官史である。その主体は薩長土肥の下級武士。自分が指導的立場に立ってみると、過去に於て

上級武士に絶対頭の上らなかつた反駁が逆に部下に高威張りするかたちとなった。

明治・大正・昭和と新時代もすでに3代の天皇を迎え、明治が45年、大正が15年、昭和もここに49年を迎えた。明治、大正と経て軍が文官を押し昭和初期の満洲事変から、第2次世界大戦の過の中心となり、昭和20年8月15日の完全降伏によって、江戸時代から続いた400年の武士、軍官史優先の体制は一挙に消滅した筈である。

ところがお役人あるいはお役所仕事という言葉が生きているが、仕事そのものがまったく昔ながらの調子であると思つたら大まちがいである。5~10年前のお役所はそうであったかもしれない。(5~10年前は私には関係がなかった。)しかしここ2~3年のお役所仕事はそうではない。一般のサラリーマンよりはよほど良く仕事をしていると思う。私も在学時代(4年生)卒業論文のためよく市町村役場に出入りした。職員は一心不乱に仕事に励んでいる。市町村民のほとんどは住民課(市民課)税務課、あるいは保険年金課以外の課には用がない。ここはお客あつての仕事であつて一見暇そうに見えるがそうではない。ここでは応接が問題である。最近の役所ではこの応接が非常によい。デパート・銀行の受付よりはよほど良い。一度君も役所に住民票なりをとりについて見るとよくわかる。

また市町村民にほとんど接しない部課も多くある。私のもっとも身近かな建築課を見ても良くわかる。職員はみな忙しそうである。私達が生活している町に市民のために毎年何かを作ってくれている。

こんなに忙しくまた良く仕事をしている職員のサラリーは安いものである。いったいどうなっているのだと私はさげびたい。私も役人の一人として。

ある体験

44年度卒 椋田克生

寄稿といつてもあまり文章を書いたことがない私には実際の処、何を書けばよいのか皆目検討がつかない。建築に関する事を書くのが一番恰好がつかとは思つて見たけどそれは次の機会にして私が現在体験している一コマを書いてみよう。今年の正月はずばらしく美しい霧氷に出合った。

私はここ五年ほどいつもきまづ県北の庄原で正月の朝を迎えている。今朝は昨日降った新雪により白くなっているあたり一面の山々をいつものように見渡し一瞬自分の目を疑った。それは雪による白さだけではなく近くの木々が又遠くの木々が凍てつく白さで私の目に飛びこんで来た。まさしくそれは私が話しには聞いていたけれど初めて見る霧氷であった。今年はきつといい事があるだろうと内心楽

総合建設業



KURIMOTOGUMI

くりもとぐみ
栗本組

☎ 733 広島市南観音二丁目5番17号 ☎ 91-4242

しくなるような思いで滞在期間を子供達と雪だるまを作ったり雪合戦やスキーに興じたのである。

しかしそんな思いとはうらはらに一月の末日私の体に異変が起ったのである。まっ暗闇の中で電光石火の様な激痛が腰から左脚に向けて走った。その痛みはだんだんと大きく激しくなり居ても立ってもいられそうにない、時計に目をやると午前二時である。(今から思えば病院に来るまでの時間あの痛みに対してどういうふうに過したのか考えてみれば考えてみるほど不思議である。) 現に私は受診券を持ち整形外科の待ち合い室で受付に書類を提出して、自分の診察の順番を待っている。その待っている間私の体はたえず動いている又動かさざるをえないような痛みが腰の部分に襲ってくる。自分の力ではどうする事のできない痛みは待っている間中一度も絶えることはなかった。看護婦に名前を呼ばれた私は痛さのあまり老人が腰を曲げて歩くような不恰好な姿で診察室へと入っていった。医師は私の状態を見るなり「これはひどい」と一言いって他に何やら相談に行きすぐ帰って来た。医師は私に向けて「入院の手続きをしておきますのでその用意をされていて下さい。」私は呆気にとられて「はあ。」と一言診察室を出た。入院は今まで一度も経験のない私にはどんな用意をすればよいのか検討のつかないままその日の午後急患として六人部屋のベッドの上で横になっていた。病名は「椎間板ヘルニア」である。入院して三日目に手術前の検査で脊髄に造影剤を注入し患部の位置をレントゲン撮影によって確認する方法がとられた。

検査後別に異常はないと自分で判断し煙草に火をつけ一服した。私が入院した時、交通事故による入院患者の一人が私に言った言葉が「病人になりなさい。」であった。その時、病人になるという事が私には解せなかったけどたった一本の煙草によって看護婦からはこっぴどく叱られ又自からは一晩中検査後の体が休まることなく嘔吐に苦しめられてみて、入院患者の言った病人になるという言葉の意味がおぼろげながら判った

ふりかえることよりも突き進んで行くことしかなかった自分が今ベッドの上で手術後の体を横たえながら過去を一つ一つふりかえろうとしている。この先本当に今まで通りの体になって仕事ができるのだろうか、私の父は四十四才で亡くなっている。不安のつる自分に手術後の痛みは周期的に襲ってくる。私は医師を信じ病人になりきりその痛みも必ず全快することを願っている。又反面ひよっとして自分がこのまま手術の失敗によって体が動かなくなったら、そう思うと不思議なほど自分の存在感がひしひしと身にしみてくる。何でもない窓の外の風景や事物が

はっきりと目に写りちよっとした事が極めて感動的に思えてくる。

S 49/2

四二五一〇五

46年度卒 藤田 憲一

人と人との縁とは、不思議なものである。この狭い日本の中だけでも一億人以上の人間がいるのである。その天問学的な数の中から、偶然にしろ、故あるにしろ、縁ある間柄になる人は極々少なくて、数から云えば取るにたらないものである。しかしその取るに足らない数の人達は私にとって、最も大切な人達なのである。

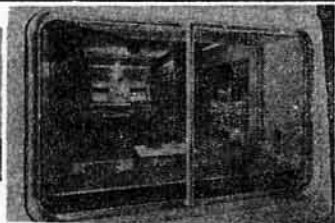
学窓を離れて三年。当初はある会社に就職していたのであるが、途中で私は商売を始めてしまった。そうすると、意外な人物に、しばしば会うのである。祖父の友人、祖父の知人、総祖父の友人・知人、昔をたどれば親戚だったとか、父の世話になった人、友人の友人、知人の知人、あるいは同じ学窓の先輩や先輩、等々……。そしてそういう人達に出あえば、途端に、商売がたやすくなるのである。こんな事を云えば、そういう不思議な縁を金に換えていると思われるであろうか、社会の中の一員として、生きていくためには、どうしても、人の力と、自分の信用というものが、必要だろうと思う。いくら自分は信用出来得る人間であると思っても信用されなければ、話にならないし、自分一人の力ではあるあると思っても、それは、限界があるのであって、力があるのではない。だから、「ああ、あれの息子なら」あるいは「あれの友達なら」と、思ってもらえれば、それだけ信用度も増大するし、そうなる事によって、一段と人の力も利用出来るのである。

最近の若い人達(自分達も含めて)は、特に人とのつながりが薄いように思う。自分でやりたい自分が、やってみたくせに、自分さえよければよいというような風潮で、一匹狼になってしまっていて、いざ独立しようと思う時には、だれも信用してくれないし、だれも力も、貸してはくれない。一人でやってみようと思うのは、まちがいでない。一人でやろうとすればするほど、なおさら、人の力が必要なのである。

こんな事を考えるのは、自分が商売している故の、老婆心からのかもしれないけれど、とにかく、そういう考え方は将来も変らないであろう。そして、自分でやろうとした時、あるいは自分で何かをやり始めた時、きっと誰もが、気がつくと思う。とにかく、一度出来た縁は、良きにつけ、悪しきにつけ、大切にしたいものである。先輩諸氏、後輩諸君、何時か、私と出会った時には、よろしくたのみます。

70年代の住まいを
リードする
ホームコア75

住まいの技術革新
それが私たちの
使命です



新開発
変化の時代に適應するホームメカ

ミサワホーム株式会社

本社 〒160 東京都新宿区新宿 3-24-1 Ⅲ 03 (354) 3581(代)
広島支店 〒730 広島市稲荷町 4-1 (住友生命ビル) Ⅲ 0822 (61) 3145(代)